

# マラライ・ジョヤ

アフガニスタンで最も勇敢な女性

# マラライ・ジョヤ、その略歴

- 1978年、アフガニスタン西部のファラー州に生まれる
- 4歳から16年間をイラン、パキスタンで難民生活
- RAWAの学校で教育を受ける
- タリバン政権下、OPAWC(アフガン女性能力促進協会)で地下活動
- 2003年、ファラー州代表としてロヤ・ジルガに参加し、軍閥を批判する演説をおこなう

# ロヤ・ジルガ(国民大会議)演説

世界から「アフガンで最も勇敢な女性」と賞賛される

YouTube から

The brave and historical speech  
of Malalai Joya in the LJ

# マラライ・ジョヤの闘い、その後

- RAWAのメンバーではあるが、その思想・目標
- 光州人権賞、アンナ・ホーランド賞を受賞

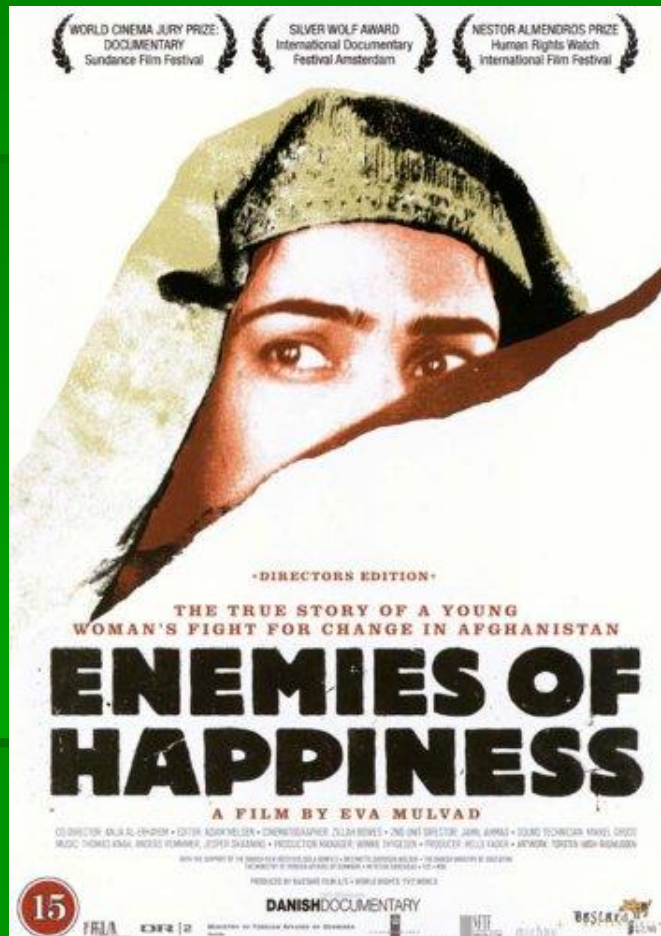


をた  
ヴァ・ムルヴァドがドキュメンタ  
『敬』で紹介。2008年、ベル  
平和映画部門賞を受賞

MITでの講演

# ドキュメンタリー『幸福の敵』

911レクシオンに  
あります



- 2007年2月20日、NHKが『祖国に幸せを 女性代議士の闘い』の題で放送

20歳でRAWAを創設し、  
30歳で暗殺されたミーナ。

だが、歴史の曲がり角に  
は、あらゆる人の自由、平  
等、正義を求め、百万の  
民衆とともに声をあげ、  
闘った数多くのミーナがい  
る。



# 教育こそ

- 父親の影響
- 成人女性への識字教育を担当 (RAWAの学校で)
- ヘラートで女子教育を実践 (OPAWCの活動)

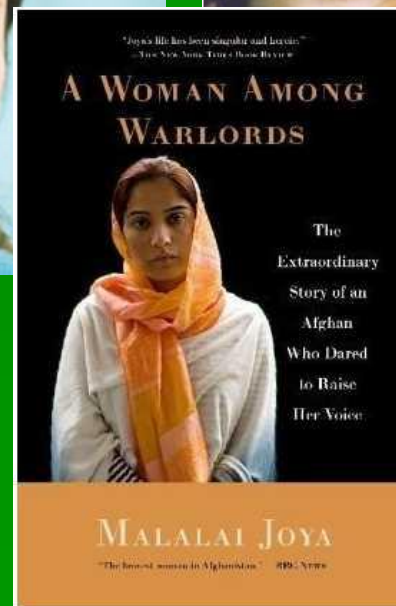
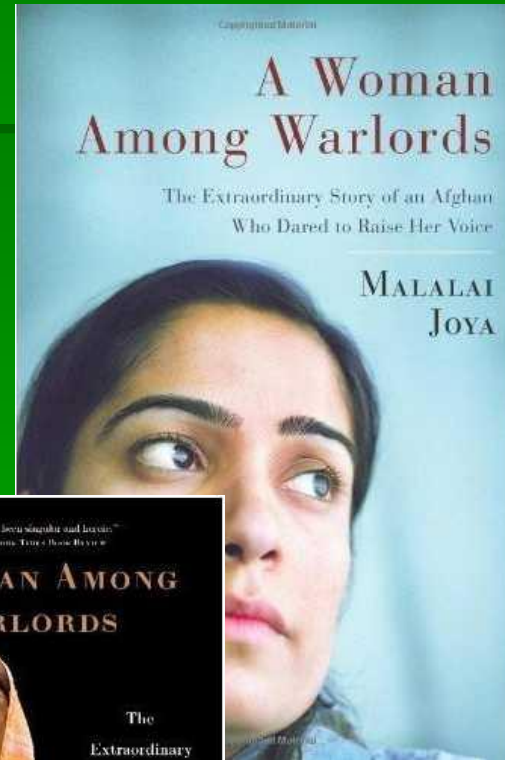
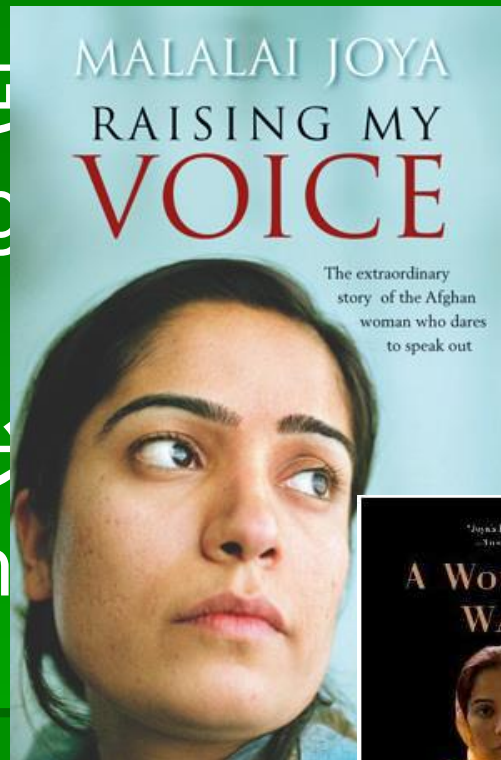
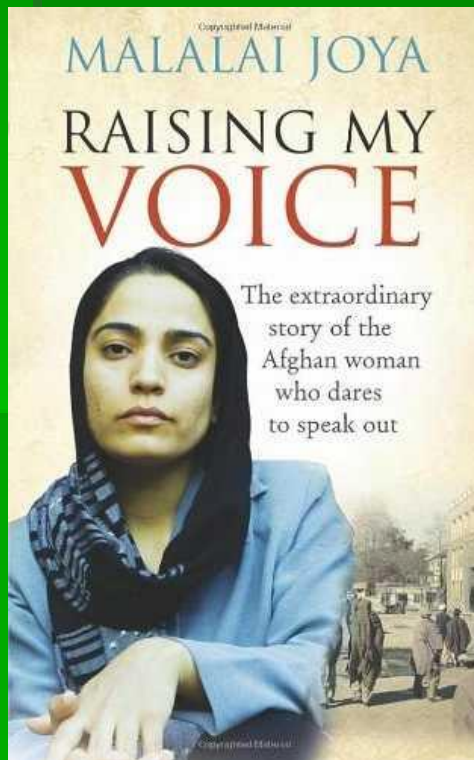
# 大学には進まなかったが…

ブレヒト、キング牧師、サマド・ベフランギーらの作品を引用。ゴーリキー、ジャック・ロンドン、ラングストン・ヒューズ、アシュラフ・デフガーニなどを読み、ガンジーやゲバラの伝記に触れ、ルムンバやビクトル・ハラの生涯に影響されたという。



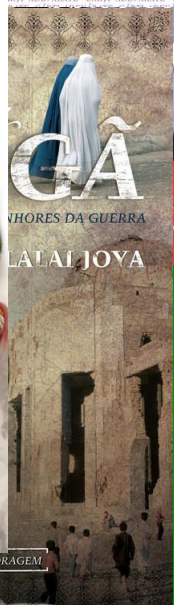
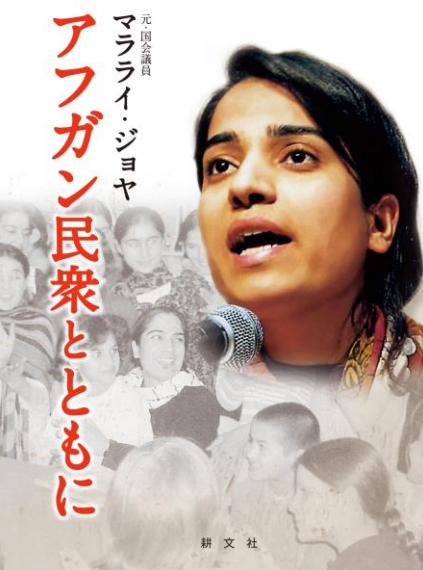
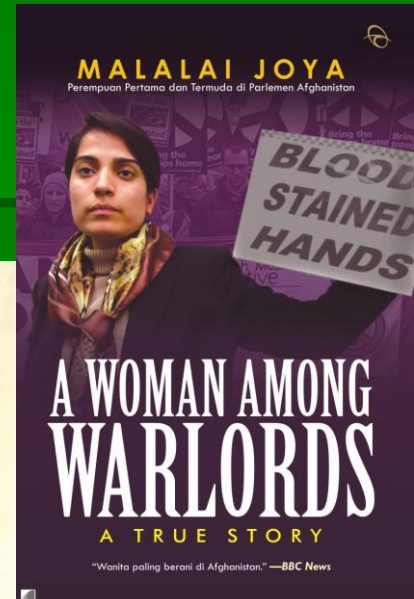
# マラライ・ジョヤ、自叙伝を執筆

- 2009年 7月 30日
- Raising My Voice



# 各国語へ翻

ドイツ  
ノルウ  
フラン  
オラ



口本語 アフガン

# その素顔

- 政治家としてのカリスマ性は十分に持ち合わせているが…
- 社会活動家
- 子どもたち、学生が大好き



自由とは他国によってもたらされるものではない。自ら闘って勝ちとるものである。大地に種をまき、血と涙を注いで育むことによつてのみ芽吹き、生長するのだ。

真理は太陽のごとく。いったん空に昇らば、何人もこれを遮ることを得ず。また、これを隠すことを得ずニアフガンの格言である。

ささやかとはいえ、本書が、そして私の物語が、いつも太陽の輝きとならんことを。どこであろうと、読む人たちに勇気を与えんことを。平和と正義、民主主義を求め闘いの助けとならんことを。